

5. カマキリ目

現地調査では、多和田潤治・渡邊忠雄の両氏から御協力をいただいた。心より感謝申し上げます。なお、得られた試料は全て、筆者が同定・確認した。

(1) カマキリ目の生息状況

栃木県内からは、園部（2003）により1科5種のカマキリ類が記録されている。

本調査では、1科4種が確認された（表Ⅶ-5-(1)-1）。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産カマキリ類のうち、80%の生息が記録されたことになる。

調査地内には、樹林や草地在り広く点在しており小昆虫類も多い。食肉性のカマキリ類を温存するだけの、良好な自然環境が維持されていることを示す結果と言えよう。

【表Ⅶ-5-(1)-1 カマキリ目の科別種数一覧】

科名※	本調査地の生息種	調査確認	(文献記録のみ)
カマキリ科	4	4	
計 1科	4種	4種	

※科の分類は園部（2003）に準じた。

チョウセンカマキリは平野部の林縁草地に生息するが、分布は局地的傾向が強く、個体数密度は比較的低い。

一方でオオカマキリは、平野部から低山地の林縁草地や農耕地周辺の草原、あるいは民家の庭などに広く生息する。個体数も多く、卵鞘も各地で確認されており、優占種となっている。

コカマキリは分布が広いものの局地的傾向が強く、一度に多数の個体が見られる例は少ない。

ハラビロカマキリは暖地系の種で、県内では宇都宮市以西の記録が多い。しかし、近年は那須塩原市内でも秋季を中心に、散発的に確認されており分布上注目される。

(2) 保全すべき種

保全すべき種に該当する確認種はなかった。しかし、カマキリ類は食肉性昆虫類として生態系上重要な位置を占めている。この点には十分留意していただきたい。

(3) 注目すべき種

注目すべき種は選定しなかったが、それに相当すると判断される種については、生息状況の項で概要を述べた。

(文責：渡辺 剛)

【目録】

※科の分類、種の配列、和名・学名に関しては、園部（2003）に準じた。

※生息確認種と生息エリアは、今回の現地調査結果及び那須野が原博物館所蔵の標本に基づいた。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
カマキリ目						
カマキリ科	チョウセンカマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i> Saussure		○		
	オオカマキリ	<i>Tenodera aridifolia</i> (Stoll)	○	○	○	
	コカマキリ	<i>Statilia maculata</i> (Thunberg)		○		○
	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i> (Serville)		○		

【参考文献・引用文献】

平嶋義宏・森本桂監修，2008．新訂 原色昆虫大圖鑑 第Ⅲ巻（トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目 他）．北隆館，654pp．

環境省，2007．昆虫類レッドリスト．絶滅危惧種情報，環境省ホームページ．

園部力雄，1998．11 ガロアムシ目・バッタ目・ハサミムシ目・カマキリ目・アミメカゲロウ目・シリアゲムシ目・ハチ目アリ科．黒磯市動植物実態調査研究会（編）．黒磯市動植物実態調査報告書．黒磯市動植物実態調査研究会，pp. 404-412．

園部力雄，2003．カマキリ目 Mantodea．栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅰ．栃木県林務部自然環境課，pp. 110-111．

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編，2005．レッドデータブックとちぎ．栃木県，898pp．